

平成 21 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、平成 22 年(2010 年)に学園創立 90 周年を迎えます。大正 9 年(1920 年)に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 45,000 名を超えています。甲南女子大学では、21 世紀型の女子大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成を目指しています。また、甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、財団法人甲南病院及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立精神のもと、それぞれの特色を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たし、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在) (単位:名)

区 分	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
○学生在籍者数				
大 学 院	66	58	57	52
文 学 部	1,611	1,452	1,449	1,524
人間科学部	1,433	1,515	1,583	1,674
看護リハビリテーション学部	-	142	285	468
計	3,110	3,167	3,374	3,718
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	469	467	463	475
中 学 校	504	508	512	516
計	973	975	975	991
○教職員数				
専任教職員	213	243	277	290
非常勤教職員	294	302	265	270
計	507	545	542	560

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成21年5月1日現在）

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	125	340	374
英 語 英 米 文 学 科	120	141	490	509
フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 文 学 科	—	—	—	9
多文化コミュニケーション学科	70	91	300	339
メ デ ィ ア 表 現 学 科	60	70	240	293
文学部 計	330	427	1,370	1,524
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	108	360	403
人 間 教 育 学 科	—	—	—	5
総 合 子 ど も 学 科	120	140	480	515
文 化 社 会 学 科	80	107	320	392
生 活 環 境 学 科	80	100	320	359
人間科学部 計	370	455	1,480	1,674
看 護 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 部				
看 護 学 科	85	112	260	279
理 学 療 法 学 科	60	65	180	189
看護リハビリテーション学部 計	145	177	440	468
甲南女子大学 合計	845	1,059	3,290	3,666
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 前 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	7	18	11
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	8	26	24
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	0	18	4
博士前期課程 計	31	15	62	39
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 後 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	0	9	2
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	1	9	9
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	1	9	2
博士後期課程 計	9	2	27	13
大学院 合計	40	17	89	52
甲 南 女 子 中 学 校 ・ 高 等 学 校				
甲 南 女 子 中 学 校	170	174	510	516
甲 南 女 子 高 等 学 校	170	167	510	475
甲南女子中学校・高等学校 計	340	341	1,020	991

Ⅱ. 事業の概要

1. 事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化、経済不況等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で本学園は、89年にわたる甲南女子教育の伝統と実績をもとに、常に中学校、高等学校、大学における女子教育の新しいあり方を追求するとともに、中長期の視点から健全財政の実現と経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。具体的には、平成21年度から23年度にわたる「学園中期計画」を策定し、これを学園全体で共有することによってP D C A（Plan Do Check Action）サイクルを回していくことにしました。

平成22年度は創立90周年に当たることから、「ブランド戦略本部」を立ち上げ、U I (University Identity)、S I (School Identity)、90周年記念行事企画、ブランド広報活動に取り組み、順次実行に移しています。同時に教育研究環境の整備を目的とした「90周年記念事業募金」活動を開始しました。前年度決定していた中高新校舎建設については、基本設計を完了し23年度内完成に向けた日程を確定しました。大学キャンパスについても建物に関する10年構想をまとめ、将来の学習環境整備に向けたステップの案を作成しました。

甲南女子大学では、総合子ども学科の一層の充実のために「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、21年4月「甲南保育園」を神戸市東灘区森南町に開園しました。昭和53年に建設された学生寮「松影寮」(二人部屋、定員108名)に替えて、「Konan Clover House」(一人部屋、定員155名)を神戸市東灘区甲南町に設置しました。

組織面では図書館とメディアセンターを統合すると共に、メディアライブラリーを図書館内に移設し、学生サービスの向上を図りました。また学長諮問に対する「中長期構想検討グループ答申案」をもとに、課題の整理と解決の方向付けを検討しました。次年度に具体的な計画に落とし込むことにしています。

甲南女子中学高等学校では、大学と同様に「甲南女子中学高等学校の教育理念」を再確認し、建学の理念を尊重しつつ学校の使命及び生徒がめざす姿を明確化しました。スペシャル・アドバンストコース(Sアドコース)開設2年目にあたり、新入生から1クラス増設して2クラスに、スタンダードコースを1クラス減らして3クラスに変更し、一層の充実を図りました。

2. 大 学

(1)教育体制

看護リハビリテーション学部は平成22年度に完成年度を迎えますが、翌23年度大学院「看護リハビリテーション研究科(仮称)」の設置に向けて、その準備に着手しました。また、大学院前期課程心理・教育学専攻に教員の幼稚園専修免許状及び小学校専修免許状の課程認定を文部科学省から受けました。

平成20年度から次の通り学科名称を変更しました。文学部(日本語日本文学科→日本語日本文化学科、多文化共生学科→多文化コミュニケーション学科)、人間科学部(行動社会学科→文化社会学科、人間環境学科→生活環境学科)。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 21 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻	
	人文科学総合研究科 (博士後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻	
学 部	文 学 部	日本語日本文学科(3・4年生) 日本語日本文化学科(1・2年生) 英語英米文学科 フランス語フランス文学科(募集停止) 多文化共生学科(3・4年生) 多文化コミュニケーション学科 (1・2年生) メディア表現学科
	人間科学部	心理学科 人間教育学科(募集停止) 総合子ども学科 行動社会学科(3・4年生) 文化社会学科(1・2年生) 人間環境学科(3・4年生) 生活環境学科(1・2年生)
	看護リハビリテーション学部	看護学科 理学療法学科

(2)教育活動

各学部学科における専攻科目は教育効果を高めるために例年見直しを行い、一部科目を入れ替えています。平成21年度は日本語日本文化学科においてホスピタリティーに係る科目を増やし、英語英米文学科にはアドバンストコースを設けました。また、メディア表現学科においては、学べる内容を明確にするために平成22年度からメディア研究、映像表現、身体・空間表現の3領域とすることになりました。

対外協力センター(社会貢献室、国際交流室)を新設し、社会貢献活動と国際交流活動の活性化を図りました。地域社会と大学を繋ぐ活動も活発化していますが、詳細は後述します。

また、甲南大学との大学間連携講座も始まり、本学から前期・後期併せて延べ60名以上の学生が甲南大学の授業を受講し、単位互換を行っています。

(3)外国語教育

外国語教育については大幅に科目の整理を行いました。全学共通科目のメディア科目のほか、英語英米文学科専攻科目、多文化コミュニケーション学科専攻科目に外国語科目が配置されていますが、重複をなくすることにより学生にとって分かり易い科目配置としました。

その他、初習外国語は例年同様、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、インドネシア語、韓国語、中国語を開講しています。

(4)国際交流

語学力と国際感覚を身につけるために、交換留学を含む各種留学（17プログラム）、語学文化研修（11プログラム）、専門的な海外研修（3プログラム）、計31プログラムを整え運営していますが、21年度は新型インフルエンザ対策の影響により実施プログラムが減少しました。

交換留学：(中)天津外国語学院 国際交流学院、(韓)淑明女子大学校
認定留学：(米)西イリノイ大学 WESL (加)リジャイナ大学 ESL (仏)ナント大学 IRFFLE (韓)淑明女子大学校 国際言語教育院 (ニュージーランド)カンタベリー大学 CCEL

語学文化研修：(豪)シドニー大学 The Women's College (加)リジャイナ大学 ESL (中)復旦大学 国際文化交流学院 (韓)淑明女子大学校 国際言語教育院 (伯)サンパウロ学生会

海外研修：(韓)海外日本語教育実習

また、学内の国際化をめざし、受入れ留学生の支援活動、淑明女子大学校・日本文化研修団受入れ、バージニア大学洋上セミナー受入れなどの交流活動を実施しました。さらに、万一の危機に対処するための「危機管理マニュアル」を改訂整備しました。保険も一括加入で費用を削減するとともに効率的な運営をめざしました。

(5)情報教育

情報化社会に対応し、初級から上級者向けの科目を全学共通科目に設けています。また、学生数増加に伴う学習環境充実のため、IT機器の増設を行いました。

その他、学生支援用情報システムを強化し、教務課業務の効率化を図ると同時に学生への利便性を高めました。

(6)学生生活

社会化学習への支援としてマナー教育（社会化教育プログラム）を展開し、様々な活動を行っています。学習指導と生活指導を統合する学習支援として、共通科目「大学探検」を開講科目に設定し、1年生を対象にマナー講座を提供すると共に、禁煙応援講座、薬物乱用防止・感染予防講座、人権講座を実施しました。

平成20年度に導入されたアドバイザー制度の定着により、学生の健康や適応に関する情報を共有し、他の部局とも連携しつつ、家庭の協力を求めるなど支援にあたっています。学生生活の質（QOSL）調査を学生の精神的健康度の把握

と学生支援の充実、ならびに指導体制の方向を探るために実施しています。

10月には大学と学生の家庭を結ぶ教育懇談会を開催しました。また、優秀な学生を表彰（大学・優秀学生賞、同窓会・清友会賞、教育後援会・学習奨励賞）しています。

(7)課外活動

弓道部 第63回 兵庫県民体育大会 個人の部 準優勝

洋弓部 第63回 兵庫県民体育大会 団体の部 3位

ゴルフ部 関西学生女子春季1部校対抗戦 1部昇格

水泳部 第21回夏季デフリンピック台北2009

女子バタフライ200メートル 銅メダル受賞

女子自由型800メートル 銅メダル受賞

バトントワリング 第5回WETFインターナショナルカップ(シドニー)女子選手権の部 3位

(8)就職活動

就職を取り巻く環境が急激に変化している状況の中にあって、本学学生の就職に対する意識が高まっています。学生や保証人の就職への期待に応えるためにも、将来のキャリアを考える授業「キャリアデザイン」（1～3年生対象）の充実を図るとともに、就職部として「就職ガイダンス」や「就職対策講座」で実践面を強化し、個別相談やゼミ単位のガイダンスを通じて一人ひとりの学生の精神面のフォローに力を注いでいます。

また、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」では、本学から学生の考える力と文章力を伸ばすことを目的として申請した「キャリアノート」が採択され、ほぼ1年かけて編集し完成しました。22年度からの全学生の利用に向け、準備を行ってきました。

資格サポートセンターでは、毎年多くの学生が社会人としてのスキルを身につけるために資格取得にチャレンジしており、学生の期待に応えるべくMicrosoft Office Specialist、TOEIC、日商簿記等の資格講座を提供し、学生のサポートを実施しています。

(9)大学開放

4月に第44回シェイクスピア祭を芦屋市民会館にて開催し、また子ども学講演会も年数回開催しました。

10月第4土曜日には同窓生を招いて、第28回ホームカミングデーを開催しました。（大学祭と同時開催）

さらに大学が有する人的・物的・知的資源を広く学外へ提供する公開講座・研修会等を実施しました。

公開講座 「阪神間と近代文学」「ひょうご講座オープンカレッジ」
「日本語日本文化学科社会人講座」

研修会 「D-PEC」臨床実習指導者育成
地域交流 「甲南子育てひろば」「本山東円卓会議」
芸術文化 「芦屋交響楽団」芦原講堂開放
心理相談 「心理相談研究センター」

(10)学生募集

広報面では、紙媒体によるパンフレットやDMなどと、ホームページや携帯電話（モバイル系）の電子媒体とを両立し、広報展開の内容などバランスを均衡させ、大学受験世代向けの特化した大学広報の充実を図りました。

学生募集面では、高校や予備校を訪問、オープンキャンパスは勿論のこと、特に他大学との共催の入試説明会（神戸市5女子大、看護・医療系大学関係）を実施しました。

入学試験の実施については、ミスの未然防止など徹底した完全管理体制を構築し、また、受験生のニーズに合うようマークシートによる解答方式を導入、効率性経済性の面からも、目標とする入試実施関連業務の改革を実施しました。

(11)表彰

学生に対する授業評価アンケートの項目を用い、大学教員(1名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。

(12)地域貢献

専門部局「対外協力センター」を設立し、地域社会から国際社会まで幅広い地域貢献活動を展開しています。センターでは全学の地域貢献活動を集約した上でそれらを7領域に分類し、総合的な地域貢献スキーム「神戸7つのケアの世界」をスタートさせました。このスキームのもとで40以上のプログラムが動いています。

このスキームに参加する学生のボランティア登録もすすめ、21年度は約100名の登録を済ませました。学生は地域の保育・幼児教育施設、小学校、児童館などで活発な地域貢献活動を行いました。また、引き続き地域社会との提携関係確立の動きを活性化し、複数の介護施設との関係を強化しました。さらに地域の芸術活動支援のために芦屋交響楽団支援や地域の芸術家の作品委託管理も始めました。

(13)施設関連

教室の整備（多目的教室他）、AVデジタル化、ICT化、温水洗浄トイレ化3年計画(21年度スタート)の推進、教務・学生生活部レイアウト改装、入試部改装、大学生協食堂改装、大学正門看板の新設及び学内案内表示板の更新など、学習環境の改善、学生サービスの向上を図りました。

3. 中学校・高等学校

(1)教育活動

中学1年は、4月入学式前に友達作りと中学生としての自覚を促すことを目的としたスプリングセミナーを実施、2年は平和学習（総合の時間及び9月下旬に広島平和研修旅行を実施）、3年は多くの保育所の協力の下、1学期末考査後に保育体験学習を実施しました。

高校1年は、3月末に実施したスプリングセミナー(勉強合宿)で、自ら学ぶ姿勢を身につけ、11月に「探求（総合の時間）」と連動した「水俣研修旅行」を実施しました。2年(希望者)は8月に行ったサマーセミナー(勉強合宿)で学習深度を深めました。また、11月に「探求(総合の時間)」と連動した研修中心の「沖

縄修学旅行」を実施しました。

2月に、1年間の総合学習(探求・平和)・環境学習の成果を発表する「学習成果発表会」を、甲南大学、甲南中学校・同高校、甲南小学校の参加を得て、開催しました。

(2)生徒指導

品位ある人格形成のため、「あいさつ」の励行運動(和光会と協同実施)や頭髪・容儀等、教員全員で指導した結果、来校者の評価も上昇しており、学外で生徒にお世話になったとの感謝の声も届いています。登下校時の態度については、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR 甲南山手駅)での指導を含め、引き続き指導を続けています。

(3)環境学習

6月・10月に広野で農作業体験を、9月に住吉川環境学習を甲南大学、甲南中学校・高等学校、甲南小学校と合同で実施しました。2月には、甲南小学校で行われた「収穫祭」にも参加しました(いずれも希望者)。

(4)行事

春の文化祭、秋の体育大会共、生徒による自主的な運営により行われており、大きな盛り上がりを見せる二大行事となっています。文化祭は家族・友人・卒業生など来校者数が3575名にのぼりました。体育大会は入場券を発行していないため、来校者数の把握はできていませんが、多くの来校者が訪れ盛況でした。

(5)土曜日活用

高校2年・3年の希望者を対象に、通年で国語・数学・社会・理科・英語の補習授業を実施しました。

(6)国際交流

長期の留学ではディートリッヒ・ホンヘッファー・ギムナジウム(独、派遣1名、今年受け入れなし)との交換留学を実施しました。4月～7月には日系ブラジル人留学生を、9月からは中国人留学生を受け入れました。夏期休暇中の中国語研修、カナダホームステイ、オーストラリア研修旅行は新型インフルエンザ対策の影響で実施することができませんでした。また、昨年始まったオーストラリア・セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズハイスクールとの2ヶ月間の交換留学プログラムでは2名の留学生を受け入れました。

(7)課外活動

写真部

第17回兵庫県高等学校写真連盟春季写真コンテスト

神戸支部賞(予選)、入賞(本選)

第33回兵庫県高等学校総合文化祭写真コンテスト

特別支部賞(予選)、佳作(本選)

インターハイスクールカップ・フォトコンテスト 特選

放送部

- 第 56 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト（予選）兵庫県大会
アナウンス部門 佳作 朗読部門 入選 ラジオドキュメント部門 入選
- 第 56 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト（県大会）
朗読部門 優良賞（14 位） ラジオドキュメント部門 奨励賞
テレビドキュメント部門 奨励賞
- 第 26 回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト兵庫県大会
アナウンス部門 優良賞、入選 朗読部門 入選、佳作
ラジオ番組部門 優良賞
- 第 33 回 兵庫県高等学校総合文化祭 放送部門
アナウンス部門 佳作 朗読部門 佳作 ラジオドラマ小部門 佳作

コーラス部

- 第 76 回 NHK 全国学校音楽コンクール兵庫県大会
中学校 銀賞 高校 銅賞
- 兵庫県合唱コンクール 中学校 銀賞 高校 金賞
- 第 64 回 関西合唱コンクール 高校 銀賞

演劇部

- 第 33 回 兵庫県高等学校 総合文化祭 演劇部門 優良賞

アーチェリー部

- 第 53 回 兵庫県高等学校総合体育大会
団体優勝 個人優勝・5 位
- 平成 21 年度 県民大会 アーチェリー競技大会
高校団体の部 団体優勝 個人の部 優勝・3 位・4 位・5 位
中学個人の部 優勝
- 全国高等学校総合体育大会 アーチェリー競技大会
団体 9 位 個人 11 位
- 平成 21 年度 兵庫県高体連神戸支部アーチェリー新人戦大会
高校団体 優勝 個人 優勝・2 位・4 位・5 位・6 位
- 全兵庫アーチェリー選手権大会
高校団体 優勝・3 位 個人 優勝・2 位・3 位・4 位・6 位
中学個人 2 位・3 位
- 平成 21 年度 全国高校選抜アーチェリー大会 選考会
高校個人 1 位・2 位・3 位・4 位
- 第 6 回 つま恋カップアーチェリー大会
高校個人 6 位・7 位
- 平成 21 年度 のじぎく杯 室内アーチェリー競技大会
高校個人 2 位・5 位・6 位
中学個人 2 位
- 平成 21 年度 全関西室内アーチェリー大会
高校個人 1 位・3 位
中学個人 3 位・5 位・6 位
- 第 6 回 加東オープン室内アーチェリー大会

高校個人 優勝・2位
中学個人 優勝・2位・3位・5位・6位

弓道部

JOCジュニアオリンピックカップ第6回全国中学生大会

中学個人 7位

兵庫県秋季高校弓道大会

(近的) 女子団体 優勝 女子個人 6位 (遠的) 女子個人 2位

第28回全国高等学校選抜弓道大会 県予選

団体女子 優勝 女子個人 2位・4位・5位

弓道近畿中学生大会

団体 優勝 個人 優勝・2位

第17回 近畿高等学校弓道選抜大会

団体 優勝 個人 4位・5位

水泳部

兵庫県総合体育大会 女子水球競技 優勝

近畿高等学校水球選手権大会 女子水球競技 3位

兵庫県高校ジュニア選手権 女子水球競技 優勝

馬術

第33回全日本ジュニア障害馬術大会 グレード中障害D 入賞

大阪グランプリ第35回ファイナル大会 ジュニア障害飛越 優勝

第45回大阪新春馬術大会 小障害飛越競技 優勝・2位

書道

第42回兵庫県私学総連合会 書道展 特選

第56回日本学書展 準特選

(8)安全教育

4月と10月に「自衛消防総合訓練」を、全校生徒・全教職員を対象に実施しました。7月は教員対象の「ケガ応急処置研修会」を、12月には、警察官の講演とネット被害をテーマにしたビデオ鑑賞による「防犯教室」を、全校生徒を対象に開催しました。下校時刻(15時45分から17時45分)に、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。

(9)生徒募集

平成20年度よりスタートしたSアドコースとスタンダードコースの新体制及び新校舎建築計画(平成23年度中に竣工・24年度より使用)の広報を中心に、10月に1回・11月に2回の計3回の学校説明会を実施しました。参加総数は1460名に及び、校外での説明会も盛況でした。22年度中学入試では、Sアドコース2クラス、スタンダードコース3クラスの募集を行い、両コースとも高倍率となりました。多くの学校で定員割れを起こしている中で、本校は順調に182名の入学者を確保しました。

Ⅲ. 財務の概要

(1)平成 21 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度決算額	H20 年度決算額	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	5,217,918	4,691,593	526,325	111.2%
手数料収入	108,244	95,660	12,584	113.2%
寄付金収入	44,656	33,150	11,506	134.7%
補助金収入	650,695	566,748	83,947	114.8%
資産運用収入	278,106	392,152	△114,046	70.9%
資産売却収入	1,002,093	1,001,987	106	100.0%
事業収入	84,907	34,528	50,379	245.9%
雑収入	115,583	149,211	△33,628	77.5%
前受金収入	1,062,595	1,082,545	△19,950	98.2%
その他の収入	396,550	479,463	△82,913	82.7%
資金収入調整勘定	△1,235,880	△1,153,980	△81,900	107.1%
計	7,725,467	7,373,057	352,410	104.8%
前年度繰越支払資金	3,144,364	2,956,364	188,000	106.4%
収入合計	10,869,831	10,329,421	540,410	105.2%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 3 億 52 百万円増の 77 億 25 百万円となりました。主な増加は、学生生徒等納付金収入増(5 億 26 百万円増)によるものです。一方、主な減少は資産運用収入減(1 億 14 百万円減)によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度決算額	H20 年度決算額	増減	増減率
人件費支出	3,322,814	3,356,706	△33,892	99.0%
教育研究経費支出	1,147,866	1,036,794	111,072	110.7%
管理経費支出	453,393	691,907	△238,514	65.5%
施設関係支出	149,621	192,986	△43,365	77.5%
設備関係支出	324,824	157,788	167,036	205.9%
資産運用支出	1,612,654	1,699,047	△86,393	94.9%
その他の支出	449,769	319,159	130,610	140.9%
資金支出調整勘定	△321,425	△269,330	△52,095	119.3%
計	7,139,516	7,185,057	△45,541	99.4%
次年度繰越支払資金	3,730,315	3,144,364	585,951	118.6%
支出合計	10,869,831	10,329,421	540,410	105.2%

『支出の状況』

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 45 百万円減の 71 億 39 百万円となりました。主な減少は、管理経費支出減(甲南保育園設置寄付金支出 2 億 60 百万円減)によるものです。一方、主な増加は設備関係支出増(1 億 67 百万円)によるものです。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度決算	H20 年度決算	増減	増減率
資金収支差額	585,951	188,000	397,951	311.6%

*資金収支差額=資金収入計－資金支出計

『資金収支差額の状況』

資金収支差額は前年比 3 億 97 百万円増の 5 億 85 百万円となりました。この結果、次年度に繰越される支払資金は 37 億 30 百万円となりました。

平成 21 年度の主な施設設備整備事業費は次のとおりです。

大学

①洋式トイレ改修(各棟)	25,725	千円
②管理棟多目的教室(031 教室)設置	30,450	千円
③教室照明設備更新(各棟)	16,779	千円
④3 号館各教室 AV 設備更新	36,000	千円
⑤学内 LAN 設備更新	45,889	千円
⑥学生支援用情報システム設備更新	47,670	千円
⑦図書館システム設備更新	29,635	千円

中高校

①プールポンプ更新	1,029	千円
②PC 教室サーバー更新	4,305	千円

【消費収支計算書】

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度決算額	H20 年度決算額	増減	増減率
学生生徒等納付金	5,217,918	4,691,593	526,325	111.2%
手数料	108,244	95,660	12,584	113.2%
寄付金	49,655	37,984	11,671	130.7%
補助金	650,695	566,748	83,947	114.8%
資産運用収入	278,106	392,152	△114,046	70.9%
資産売却差額	746	1,278	△532	58.4%
事業収入	84,907	34,528	50,379	245.9%
雑収入	115,583	149,211	△33,628	77.5%
帰属収入合計	6,505,854	5,969,154	536,700	109.0%
基本金組入額合計	△326,597	△328,700	2,103	99.4%
消費収入の部合計	6,179,257	5,640,454	538,803	109.6%

『消費収入の状況』

①学生生徒等納付金

学部生の増加(349名)により、前年比5億26百万円増の52億17百万円となりました。期中の学生生徒数は、4709名(平成21年5月1日現在)です。

②手数料

前年比12百万円増の1億8百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料1億円です。

③寄付金

前年比11百万円増の49百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として24百万円、学園創立90周年記念事業募金(施設設備の整備事業)として教育振興基金へ20百万円の寄付を受け入れました。

④補助金

前年比83百万円増の6億50百万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金3億30百万円、私立大学教育研究装置施設整備費補助金17百万円、大学改革推進等補助金6百万円、兵庫県私立学校経常費補助金2億85百万円です。

⑤資産運用収入

前年比1億14百万円減の2億78百万円となりました。積立資産、運転資金等の受取利息2億72百万円及び施設設備利用料5百万円です。

⑥事業収入

主なものは、大学の学生寮寮費81百万円です。

⑦雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入99百万円及びその他の雑収入15百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比5億36百万円増(9.0%)の65億5百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H21年度決算額	H20年度決算額	増減	増減率
人件費	3,348,129	3,298,264	49,865	101.5%
教育研究経費	1,844,017	1,751,537	92,480	105.3%
管理経費	524,054	757,205	△233,151	69.2%
資産処分差額	395,833	18,787	377,046	2107.0%
徴収不能引当金繰入額等	12,578	6,669	5,909	188.6%
消費支出合計	6,124,611	5,832,462	292,149	105.0%

減価償却費の内訳

内訳	H21年度決算額	H20年度決算額	増減	増減率
教育研究経費	696,150	714,742	△18,592	97.4%
管理経費	70,661	65,297	5,364	108.2%

『消費支出の状況』

⑧人件費

教員の増加により前年比 49 百万円 (1.5%) 増の 33 億 48 百万円となりました。期中の本務教職員数は 290 名、兼務教職員数は 270 名で、帰属収入に占める人件費割合は 51.5% となり、前年同比率 55.3% から 3.8% 減少しました。

⑨教育研究経費

前年比 92 百万円 (5.3%) 増の 18 億 44 百万円となりました。減価償却費を除く経費は 11 億 47 百万円 (前年比 10.7% 増) で、前年度より 1 億 11 百万円増加しました。減価償却費は 6 億 96 百万円 (前年比 2.6% 減) となり、前年度より 18 百万円減少しました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 28.3% (前年同比率 29.3%) です。

⑩管理経費

前年比 2 億 33 百万円 (30.8%) 減の 5 億 24 百万円となりました。減少要因は甲南保育園設置寄付金 2 億 60 百万円の支出がなくなったことによるものです。帰属収入に占める管理経費の割合は 8.1% (前年同比率 12.7%) です。

⑪資産処分差額

有価証券の評価差額 3 億 54 百万円及び施設設備の処分による除却損 41 百万円を合わせ 3 億 95 百万円となりました。

⑫徴収不能引当金繰入額、徴収不能額

貸与奨学金及び学費の徴収不能引当金で 12 百万円となりました。

その結果、消費支出合計は前年比 2 億 92 百万円 (5.0%) 増の 61 億 24 百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度決算	H20 年度決算	増減	増減率
当年度消費収入超過額	54,646	△192,008	246,654	—
前年度繰越消費収入超過額	2,246,631	2,438,639	△192,008	92.1%
翌年度繰越消費収入超過額	2,301,277	2,246,631	54,646	102.4%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

当期の基本金組入は、第 1 号基本金へ 1 億 26 百万円、第 2 号基本金へ中高校の校舎改築資金として 2 億円を組み入れました。その結果、帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した消費収入合計は 61 億 79 百万円となり、消費収入合計から消費支出合計を差し引いた額 54 百万円の消費収入超過となりました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H21 年度決算	H20 年度決算	増減	増減率
帰属収入—消費支出	381,243	136,692	244,551	278.9%

帰属収支差額は収支状況を見る最も基本的な指標であり、平成 21 年度は前年度より 2 億 44 百万円 (278.9%) 増加し、3 億 81 百万円となりました。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
固定資産	38,912,858	39,072,395	△159,537	99.6%
有形固定資産	21,020,995	21,430,926	△ 409,931	98.1%
土地・建物・構築物	17,247,046	17,619,695	△ 372,649	97.9%
機器備品・図書・車輛	3,773,949	3,811,231	△ 37,282	99.0%
その他の固定資産	17,891,863	17,641,469	250,394	101.4%
特定資産・有価証券	17,684,995	17,537,255	147,740	100.8%
その他	206,868	104,214	102,654	198.5%
流動資産	3,913,575	3,326,180	587,395	117.7%
現金預金	3,730,315	3,144,364	585,951	118.6%
その他	183,260	181,816	1,444	100.8%
資産合計	42,826,433	42,398,575	427,858	101.0%

『資産の状況』

資産総額は前年度より 4 億 27 百万円 (1.0%) 増加し、428 億 26 百万円となりました。

固定資産は、1 億 59 百万円(0.4%)減少し 389 億 12 百万円となりました。これは主に有形固定資産の内建物が減価償却費の増加により 3 億 20 百万円減少したこと及びその他の固定資産の特定資産(積立金)が 1 億 47 百万円増加したことによるものです。

流動資産は、5 億 87 百万円(11.7%)増加し 39 億 13 百万円となりました。これは主に現金預金が 5 億 85 百万円(18.6%)増加したことによるものです。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
固定負債	1,537,395	1,454,715	82,680	105.7%
退職給与引当金	1,480,030	1,454,715	25,315	101.7%
その他	57,365	0	57,365	—
流動負債	1,439,373	1,475,438	△36,065	97.6%
前受金	1,062,595	1,082,545	△19,950	98.2%
その他	376,778	392,893	△16,115	95.9%
負債合計	2,976,768	2,930,153	46,615	101.6%

『負債の状況』

負債総額は前年度より 46 百万円(1.6%)増加し、29 億 76 百万円となりました。これは主に固定負債の長期未払金(教育機器用のリース物件)が 57 百万円増加したことによるものです。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
第 1 号 基 本 金	33,238,388	33,111,791	126,597	100.4%
第 2 号 基 本 金	2,600,000	2,400,000	200,000	108.3%
第 3 号 基 本 金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第 4 号 基 本 金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	37,548,388	37,221,791	326,597	100.9%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支 差額	2,301,277	2,246,631	54,646	102.4%

【負債、基本金、消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科 目	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
負債、基本金、消費収支 差額計	42,826,433	42,398,575	427,858	101.0%

(正味財産)

(単位:千円)

基本金+消費収支差額	H21 年度末	H20 年度末	増減	増減率
	39,849,665	39,468,422	381,243	101.0%

『正味財産の状況』

当期の基本金組入額が 3 億 26 百万円となったことから、基本金総額は 375 億 48 百万円となりました。結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は、前年度より 3 億 81 百万円(1.0%)増加し、398 億 49 百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位:千円)

科目	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
学生生徒等納付金	4,350,490	4,104,118	4,351,933	4,691,593	5,217,918
手数料	67,156	90,702	98,630	95,660	108,244
寄付金	56,508	44,958	46,972	37,984	49,655
補助金	493,712	515,919	545,537	566,748	650,695
資産運用収入	446,362	476,335	390,391	392,152	278,106
資産売却差額	0	1,086	1,018	1,278	746
事業収入	55,392	32,920	36,441	34,528	84,907
雑収入	111,925	188,238	216,598	149,211	115,583
帰属収入合計	5,581,545	5,454,276	5,687,520	5,969,154	6,505,854
基本金組入額合計	△ 401,038	△1,823,378	△ 200,000	△ 328,700	△ 326,597
消費収入の部合計	5,180,507	3,630,898	5,487,520	5,640,454	6,179,257

科目	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
人件費	2,871,077	2,991,408	3,367,466	3,298,264	3,348,129
教育研究経費	1,591,921	1,578,878	1,781,395	1,751,537	1,844,017
管理経費	512,843	502,416	498,053	757,205	524,054
資産処分差額	272,990	108,454	216,950	18,787	395,833
徴収不能引当金繰入額	7,886	5,951	6,800	6,669	12,578
消費支出の部合計	5,256,717	5,187,107	5,870,664	5,832,462	6,124,611
当年度消費収支差額	△ 76,210	△1,556,209	△ 383,144	△ 192,008	54,646
前年度繰越消費収支差額	3,953,921	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631
基本金取崩額	0	0	500,281	0	0
翌年度繰越消費収支差額	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631	2,301,277

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	77.9%	75.2%	76.5%	78.6%	80.2%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$
	人件費比率	51.4%	54.8%	59.2%	55.3%	51.5%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	28.5%	28.9%	31.3%	29.3%	28.3%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	5.8%	4.9%	-3.2%	2.3%	5.9%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$

貸借対照表の推移(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
固定資産	37,110,597	39,503,240	38,898,221	39,072,395	38,912,858
流動資産	4,684,053	2,848,419	3,214,197	3,326,180	3,913,575
資産の部合計	41,794,650	42,351,659	42,112,418	42,398,575	42,826,433
固定負債	1,613,771	1,577,859	1,513,157	1,454,715	1,537,395
流動負債	933,174	1,258,925	1,267,531	1,475,438	1,439,373
負債の部合計	2,546,945	2,836,784	2,780,688	2,930,153	2,976,768
基本金の部合計	35,369,994	37,193,373	36,893,091	37,221,791	37,548,388
翌年度繰越消費収支差額	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631	2,301,277
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	41,794,650	42,351,659	42,112,418	42,398,575	42,826,433

主な財務比率(5ヵ年)

貸借対照表	固定資産比率	88.8%	93.3%	92.4%	92.2%	90.9%	固定資産 総資産
	固定負債比率	3.9%	3.7%	3.6%	3.4%	3.6%	固定負債 総資金
	流動比率	501.9%	226.3%	253.6%	225.4%	271.9%	流動資産 流動負債
	自己資金比率	93.9%	93.3%	93.4%	93.1%	93.0%	自己資金 総資金

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額
総資金=負債+基本金+消費収支差額

役員及び評議員の概要

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

役 員	
理 事 長	松 下 正 幸
理事長代行	上 島 康 男
理事長代行	松 田 基
理 事	坪 内 良 博
理 事	清 水 洵
理 事	北 市 哲 朗
理 事	神 野 富 一
理 事	稲 垣 由 子
理 事	津 村 智 恵 子
理 事	上 田 昇 司
理 事	塩 原 勉
理 事	吉 松 典 子
理 事	百 崎 祥 子
理 事	熊 谷 信 昭
理 事	銭 高 一 善
理 事	伊 藤 勲
理 事	吉 沢 英 成
監 事	小 笹 定 典
監 事	森 房 子

評 議 員	
田 中 郁 夫	松 下 正 幸
池 田 太 臣	上 島 康 男
八 木 範 彦	松 田 基
奥 田 雅 康	銭 高 一 善
岡 直 子	北 市 哲 朗
金 延 重 光	熊 谷 信 昭
林 正 規	俵 正 市
坪 内 良 博	塩 原 勉
清 水 洵	伊 藤 勲
神 野 富 一	吉 沢 英 成
稲 垣 由 子	明 石 巧
津 村 智 恵 子	荒 川 壽 正
上 田 昇 司	黒 石 誠
吉 松 典 子	鈴 木 健 夫
阿 部 美 加	笹 岡 邦 充
谷 田 奈 々 子	中 田 伊 都 子
百 崎 祥 子	本 多 千 芳 麻
山 本 恵 子	

理 事	17名
監 事	2名
評議員	35名

甲南女子学園 事務組織図

(平成22年3月31日現在)

は、法人管理運営組織

